

特集：大学説明会

大学説明会の運営に参加して（改善点、反省点ほか）

越智 恵理子（筑波大学 生物学類 1年）

事前準備に関して特に気になったことはないのですが、説明会当日について書いていきたいと思う。

最初の仕事は、バス停から会場への案内。看板や国際生物学オリンピックの旗を使っているものだった。特別仕事がある人以外は出ているので、必要以上の人数がいたように思う。ただ逆に、常にバス停に一定の人数がいることで賑やかさは増したかもしれない。私自身、高校生のときにわいわいと迎え入れてもらったのが嬉しかった。

今回おそらくメインの仕事であり、最も反省が多いのは午後の電顕室ツアー案内だった。これに関して一番の反省点は、認知度が低いということ。まずパンフレットに説明はあるものの「ツアー」とは書かれていない。そのため電顕室が総合研究棟内にあり、自分の好きな時に覗くことができると捉えた人もいると思う。

また、パンフレットはほとんど読まずに手当たりしだいで回っている人が少なくないようだ、ということ。壁に貼ってある案内

板が丁寧なので、わざわざパンフレットを読まなくてもそれで済んでしまうのだ。そうすると、電顕室ツアーに気づくのはちょうど宣伝の紙を目にとめた人が、「出発します」という声をきいた人だけ。2日目はビラを沢山配ったので気づいてもらえたが……。

個人的には、「ショウジョウバエの神経細胞みてみませんか？ 授業でよく聞く電子顕微鏡。あれって実はすごく大きくて、いくつか種類があるんです。他にもあんなものやこんなものまで見られます。めったにないチャンスです！この時間にツアーやるので、集合！！」みたいな趣旨の大きな看板を目立つ所に置いておきたかった。電子顕微鏡の魅力を知らない人がすごく多いような、そんな気がした。

去年まで迎えらる側だった大学説明会。今年迎える側に立って来て、初めて気づくこともあった。ぜひ来年も参加し、また新たな発見ができたらと思う。

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 23, 2007.